

知って得する医師の話シリーズ73



虫垂炎の話

消化器外科部長 上木原 貴仁

「盲腸」の手術をしたというのを聞くことがあると思いますが、実際は「盲腸」ではなく、「虫垂」の炎症で手術をすることがほとんどです。

虫垂は右下腹部にあり、大腸の一部で盲腸からぶら下がっている芋虫のような形であることにより、名付けられています。長さは6～8cm程で、太さは3～5mm前後の小さな臓器です。

虫垂は長い間、役割がはっきりしませんでした。最近の研究では、非常に発達したリンパ組織があり、腸に免疫細胞を供給し、腸内細菌のバランスを保ったり、善玉菌をストックする役割を担っているとされています。そのため、健康と深く関わる腸内フローラの環境を整えるために大切な器官といわれています。

しかしながら、虫垂が感染して化膿性炎症を起こすことで虫垂炎となります。急性虫垂炎は急性腹症の中で発生頻度の高い疾患の1つです。疫学上、性別差はなく、20～30代で若干、発症率が上がりますが、小児から高齢者まで幅広い層で起こり得ます。一生の間に6～7%の人が発症する可能性があるといわれています。

原因として、細菌説やアレルギー説、ウイルス説などがありますが、虫垂の中に異物が詰まったり、リンパ組織の過形成、まれに腫瘍などにより、虫垂内が狭窄または閉塞して感染を起こすことで発症すると考えられています。詰まる原因で一番多いのが便の塊（糞石）といわれており、腸の環境を良いものに保つことが、予防につながる可能性があります。

虫垂炎の症状では、50%程度で心窩部痛が出るといわれ、徐々に右下腹部へ移動する「疼痛の移動」が有名です。その他に嘔気や嘔吐、発熱などの症状も多く認められます。さらに炎症が強くなり、虫垂以外の部位に波及すると、腹部全体が痛む状態になることもあります。

適切な処置を行わないと、腹膜炎や敗血症など重篤な合併症を起こすことがあり、命を脅かす可能性があります。かつては、すぐに開腹手術になることもありました。が、現在では軽度の虫垂炎に対して、抗生剤で保存的に治療することが多くなっています。10～35%の割合で虫垂炎を再発する危険性があるといわれており、炎症が落ち着いた後、待機的に腹腔鏡下虫垂切除術を行うことが多くなっています。

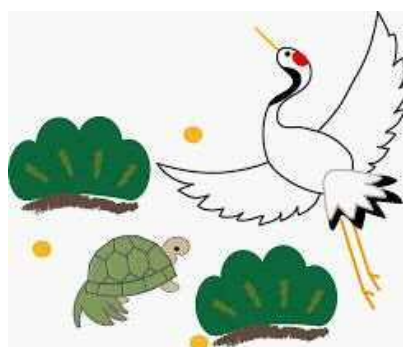
虫垂炎が疑われる時は、早めに病院を受診することをお勧めします。

敬老のお祝いをしました

今年は、9月15日（金）に入院している患者さんのうち、75歳以上の67名の方へ『敬老のお祝い』を致しました。

三枝院長が病室を訪問し、一人一人の患者さんに敬老の日を迎えられた喜びをお伝えし、お祝いの品をお渡ししました。今年は102歳の方が入院されており、お祝いの品と共にお渡ししたタオル帽子を喜んで着用してくださいました。

皆様、これからもお身体をいたわり、早くお元気になって下さい。



セクション紹介（薬局）

薬務技師 有西 聡美

現在薬局には薬剤師5名と補助員2名がおり、計7名のスタッフで毎日元気に業務を行っています。薬剤師の中には専門性の高い認定資格であるがん薬物療法認定薬剤師がいて、抗がん剤に関する豊富な知識を持っています。また、薬学実務実習指導薬剤師も2名おり、薬学生の実務実習を受け入れて、将来の薬剤師に対する教育も行っています。

主な業務内容としては内服薬や注射薬、外用薬等の調剤、抗がん剤点滴の無菌調製、入院患者さんへの薬の説明や、医薬品に関する情報提供などがあります。他にも地域の保険薬局の薬剤師と研修会を開催するなど、病院内だけでなく地域医療にも貢献できるように努めています。

私たち薬剤師は、患者さんに安全に薬を使用してもらえるように日々、薬の量や使い方、飲み合わせを確認したり、薬に関する説明をしたり、相談を受け付けたりしています。気になることがありましたら、遠慮なくお尋ねください。



さつなん看護セミナーを開催しました

薩南病院には、6分野（緩和ケア、がん性疼痛看護、がん化学療法看護、透析看護、感染管理、皮膚・排泄ケア）7名の認定看護師がいます。「認定看護師」とは、特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護実践のできる看護師です。その認定看護師が、薩南病院内だけではなく、地域の病院・訪問看護・施設等における看護の広がりや質向上、連携のために「さつなん看護セミナー」という研修会を毎年開催しています。



今年度は6回の研修会を予定しています。8月22日（火）には皮膚・排泄ケア認定看護師が「褥瘡（床ずれ）ケア」について開催し、地域の病院の看護師の方に多数ご参加いただきました。

床ずれは、栄養不足や体調が思わしくなくなったときに同じ体位で過ごしていると、数日でおしりや足、背中などに発生してしまいます。入院中の患者さんに床ずれが発生しないように、また悪化しないようにするためのマットレス調整や体位調整（体の向きを定期的に変える）について、床ずれができてしまった場合のケア方法等について参加者と一緒に考え、学びを深めました。

今後の開催も楽しみにしている等の声も聞かれ、地域のより良い看護の質向上のために、引き続き研修会を開催して行きたいと考えています。

治療や看護ケアについて、認定看護師に聞いてみたいことがありましたら、いつでもご相談ください。

今年もツマベニチョウが来ました

大浦の巻木さんから幼虫やさなぎを沢山いただき、今年も「ツマベニチョウ」が薩南病院にやって来ました。



ツマベニチョウは幸せを呼ぶチョウとも呼ばれており、薩摩半島の中南部以南から南西諸島、大隅半島に渡って分布しており、九州が分布の北限とされています。

中庭の「ギョボクの木」の葉っぱをエサにして羽化した後、6月から8月にかけて、白地にオレンジ色の模様を強く羽ばたかせ、元気に飛び回っていました。

～ 成人用インフルエンザ予防接種について（お知らせ） ～

今年もインフルエンザの季節が近づいてまいりました。
当院では、今年度もインフルエンザ予防接種を下記のとおり実施します。
インフルエンザワクチンの数に限りがありますので、早めの接種をお勧めします。

- ◇ 期 間：平成29年10月16日（月）～ワクチンがなくなり次第終了
※市町村の予防接種助成期間中であっても終了する場合があります。ご了承ください。
- ◇ 料 金：1回につき3,500円
- ◇ 対 象 者：入院・通院患者及び一般来院者（高校生以上）
- ◇ 接種回数：原則1回
- ◇ 受 付：月曜日から金曜日（午前8時30分～午前11時まで。
ただし、土・日・祝日を除く）
なお、予約制は取っておりませんので外来診察時等に受付をして下さい。
- ◇ 負 担 額：助成金対象者の方は、市町村からの助成額を除いた金額。
- ◇ 助成に必要な書類：満65歳以上等の方は「予診票」を必ず持参して下さい。
なお、助成制度の詳細についてはお住まいの市町村担当窓口へお問い合わせ下さい。



小児予防接種、健診・相談のご案内

- ◇ 日 時：毎週水曜日 午後1時～5時
- ◇ 対象者：原則として南さつま市在住の方
- ◇ 内 容：乳幼児診査（9～11か月児健診）、予防接種、相談
- ◇ その他：事前に予約が必要です。月から金曜日の午後2時から午後5時までに電話予約をお願いします。

○当院へのお問い合わせ

【所在地】 〒897-1123 鹿児島県南さつま市加世田高橋1968-4

【TEL】 0993-53-5300

【FAX】 0993-53-6764（事務室）、53-5436（地域医療連携室）

☆ 地域医療連携室 相談支援センター（外科外来横）では、患者さんやご家族からのご相談をお受けしております。どうぞお気軽にご利用下さい。

薩南病院の理念

県立薩南病院は、中核的病院として地域医療に貢献し、住民に信頼され、安心して医療を受けられる病院を目指します。

方 針

- 1 職員は、常に「患者さんのための病院」であることを自覚し、安全に充分配慮して医療サービスを提供する。
- 2 職員は、常に研修・研究し、医療の質の向上に努める。
- 3 職員は、常に「和」をもって、より充実したチーム医療を実践する。
- 4 県立薩南病院は、常に他の医療・保健・福祉機関と連携し、効果的で最善の医療を提供する。